

平成24年度東京都写真美術館コレクション展

# 光の造形

Creating with Light  
The Manipulated Photograph  
操作された写真

2012年5月12日(土) — 7月8日(日)

開館時間=午前10時~午後6時(木・金は午後8時まで)※入館は開館の30分前まで  
休館日=毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌火曜日が休館)

観覧料=一般500(400)円/学生400(320)円/中高生・65歳以上250(200)円 主催=東京都写真美術館 協賛=凸版印刷株式会社 協力=平凡社  
※( )内は20名以上の団体料金。東京都写真美術館の公式ホームページ(www.syabi.com)をご覧ください。

東京都写真美術館  
[恵比寿ガーデンプレイス内] 3F 展示室 www.syabi.com

Tokyo Metropolitan Museum of Photography

# 光の造形

Creating with Light  
The Manipulated Photograph

操作された写真

東京都写真美術館では、当館のコレクションに基づく展覧会「光の造形—操作された写真」を開催いたします。

日本語では photography を写真、「真を写す」と書きます。写真技術が輸入された頃の幕末の人々は、現実にあるものをそのままに平面に置き換えることできる、この技術を表す言葉として「写真」を選びました。しかしこの単語をそのまま訳すのであれば、photo (光) と graph (画) で「光画」と訳されるべきだったのかもしれませんが。

「操作された写真」というと、なにか手を加えて現実をねじ曲げ、偽りの出来事を伝える物というネガティブな印象をうけるかもしれませんが、「光を利用した画を造る」と書くと印象は随分と変わらぬでしょうか。今回は、さまざまな目的で、撮った写真をそのままプリントにするだけでなく、その過程で、加える(彩色写真(横浜写真)など)、イメージを組み合わせる(コラージュ、フォトモンタージュ、多重露光、リフレクション、雑巾がけ、切り取る(トリミング)といった技術を使った作品を展示します。今では、パソコンを使って、即座にできてしまう技術もありますが、写真が発明されてから、理想の世界を求めて工夫を続けてきた写真作品から、今の時代にも繋がる写真家の思いをうけ取ることができるのではないのでしょうか。

a	b
c	d
e	f

●月の夢想/平井 輝七/1938 ●ローズ・ハドソン夫人、露城、アドワード氏/フレデリック・ハドソン/1872 ●婦人像/作家不詳/1840-1859 ●北部の樹/小関 庄太郎/1927 ●無題/ジェフリー・N・ユルズマン/1976 ●ナンディ!!/ハナヤ 勲兵衛/1937  
※表裏逆転「静止した時間」より/静止した時間 #39/奈良原 一真/1964(部分)



◎関連イベント

【手彩色写真を作ろう!】

ワタリ/計画 (麻生 知子・萩内 明子) 6月9日(土)、10日(日) 10:00~17:00  
【事前予約制】詳細は館内配布のワークショップチラシもしくはホームページ  
(http://www.syabi.com) をご覧ください。

【担当学芸員によるフロアレクチャー】

会期中の第2・第4金曜日、16時より担当学芸員による展示解説を行います。  
※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、3階展示室前にお集まりください。

【公式ガイドブック】

「光と影の芸術—写真の表現と技法」平凡社刊 予備 2,500 円 (税別)  
東京都写真美術館ミュージアムショップ Nadim X10および全国書店にて  
5月12日より発売

◎展覧会告知

「自然の鉛筆 技法と表現」7月14日(土)~9月17日(月)・祝



東京都写真美術館 www.syabi.com

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3  
恵比寿ガーデンプレイス内 TEL.03-3280-0099

■ 京浜東北線恵比寿駅より徒歩7分・東横線目黒駅より徒歩10分。  
■ 当館には専用の駐車場はございません。お車での来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。